# 学校関係者評価委員会(第５回)議事録

**１ 日　時**　　令和５年６月20日(火)　午前10時～午前11時

**２ 場　所**　　(専)京都中央看護保健大学校　東館　第３会議室

**３ 出席者**

| | | |
|---|---|---|
| 【評価委員】 | 塚本　美晴 | 学識経験者(武田病院グループ本部　看護部部長) |
| | 澤田　典子 | 学識経験者(京都工場保健会　総務部研修課) |
| | 竹村　勝美 | 保護者代表(看護学科) |
| ＜欠席＞ | 笈入　弘子 | 同窓会が推薦する者 |
| ＜欠席＞ | 田宮　禎子 | 保護者代表(看護保健学科) |
| 【学　　校】 | 石東　佳子 | 顧問 |
| | 阿形　奈津子 | 副学校長 |
| | 原　　昭彦 | 事務局長 |
| | 出野　　順 | 事務部長 |
| | 山本　絵奈 | 看護学科長 |
| | 田淵　眞由美 | 看護保健学科　副学科長 |
| | 川﨑　紀子 | 看護保健学科　副学科長 |
| | 池田　　恵 | 看護学科　専任教員(カリキュラムリーダー) |
| | 安藤　えつ子 | 看護保健学科　専任教員(特任教員) |
| ＜欠席＞ | 上山　みゆき | 看護保健学科長 |

**４ 概　要**

---

(1)開会あいさつ ･････････････････････････････････････････････････････････ 原事務局長

○今年度は地方公共団体の保健師業務経験者１名を新たに採用した。保健師教育の一層の充実を図りたいと考えている。

○新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが５類になったが、感染者が再び増加しつつある。臨地実習前には抗原検査を実施するなどして、基本的な感染症対策を徹底したいと考えている。

○昨年度、本校は創立40年を迎え、多くの皆さまからご支援をいただいて記念事業を実施した。今後も屋上防水工事や外壁の改修に取り組み、教育環境の維持向上を図りたい。

---

(2)出席者紹介

出席者それぞれが自己紹介した。

---

（3）委員長及び議事録署名人の選任

〇委員長　　塚本委員
〇議事録署名人　澤田委員

---

（4）（専）京都中央看護保健大学校自己評価の説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 阿形副学校長

〇昨年度の委員会で、「評価の目標と結果が合っていないのではないか。目標に沿って評価するともっと評価は上がるのではないか。」との意見をいただいたため、この1年間は、目標の確認等に取り組んできた。

〇評価方法としては、学校自己評価委員を主評価者、委員以外の 20 名の教職員（経験年数5年以上）を副評価者として、1 項目を2名で評価するという方法を取っている。

〇令和 4 年度の評価結果については次のとおりである。

・目標の再確認の影響もあり、11 項目において前年度より評価が上昇した。

・このうち「項目 11」は、カリキュラムの改正に伴い、アセスメントポリシーを明確化したことが評価が上がった理由である。

・逆に前年度よりも評価が低下したのは 2 項目で、このうち「項目 6」に関しては在学生の定員割れが理由である。

・全体としては56項目中、14項目で評価が「5」となり、2 項目で評価が「2」となった。

・評価が「2」となった項目のうち「項目 38」は、蔵書数や新刊が増えなかったため、前年度と同様の低い評価となった。

〇自己評価の結果はタイムリーに教職員に公表し、課題に取り組みたいと考えているが、令和 3 年度の評価結果の公表が令和 5 年 1 月となってしまったため時間的に難しかった。令和 4 年度の評価結果については早期に公表し、課題解決に向けて取り組んでいきたい。

---

（5）意見交換

■各委員からの講評・意見

【塚本委員】

〇所属する病院では半年間で評価し、2 月頃に公表、4 月から課題に取り組むという方法を取っているが、やはり時間が足りない。

〇（専）京都中央看護保健大学校は評価が全体的に高いので、質を今よりも上げていくのは難しいのではないか。

〇図書は古いものは断捨離していってもいいのではないか。また ICT 教育とどう連動させていくのかも考えなければならない。

➡今年度の入学生から iPad と電子テキストで授業を行っている。高校によって ICT に取り組む学校とそうでない学校があり、当初は学生の習熟度に差があったが、

1ヶ月が経過し、落ち着いてきている。

➡図書室にも電子書籍を導入する学校が増えてきている。学校保管の書籍としてどう取り扱うかなどの課題について継続して検討していくきたい。

○教員が楽しんで教育に当たっているかどうかが見えない。大変な業務ではあるが、楽しんで行うことができれば学生にも良い影響を与え、教育にも活かされると思う。

【澤田委員】

○令和３年度の結果公表がなぜ１月になったのかが気になるところだが、課題解決に向けて取り組む期間が短くなったという課題が見えているので、今回早期に公表を予定していることは成果につながると思う。

【竹村委員】

○子どもから聞いて気になっていることが２つある。１つは試験の採点後、解答用紙が返却されないということだが、それでは学習の振り返りができないのではないか。もう１つは頭髪に対する指導が学科によって違うということだが、統一した指導をした方がいいのではないか。

➡試験の解答用紙については以前は返却していたが、先輩たちから引き継がれる過去問しか勉強せず、知識の定着ができていない状況にあったため返却しないようにした。返却しなくなっても国家試験の問題を解く力は上昇しているので、当面は返却しない方向で進めたいと考えている。

➡返却しないことの意味や弊害については入学時のガイダンスで説明している。また、学生への様々なアンケートのなかで出てくる質問に対しても回答をしていて、結果的には返却を希望する声は年々減少している。

➡学科によって指導が違うことについては、各学科の特徴を考慮しながらも学校としてどう取り組んでいくかを考えていきたい。

■フリートーク

○国際交流に関しては取り組み方が難しい。評価項目に入れる必要があるのか。（塚本委員）

➡目標の達成に向けては短期計画と長期計画がある。その年度にどこまでを目標にして計画を立てるかにもよるが、長期計画としては ICT を活用すれば、将来世界の人々と繋がって何かを行うこともできるかもしれない。

○評価項目は指定されているのか。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（澤田委員）

➡文部科学省と日本看護学校協議会のそれぞれの指針を参考にしている。

○就職をしても奨学金が返還免除になれば地元へ帰ってしまう場合が多い。 ・・（塚本委員）

➡京都府内の出身者は今年の入学生では 73％を占めている。4 年前が 68％なので少しは京都に残る卒業生が増えるのではないか。

○食生活が良くない者は体力がなく、頭も回転しない。今年の新人は１ヶ月を乗り切るのが大変なくらい体力がない。生活を整えるということを身につけてもらいたい。 ・・・（塚本委員）

➡朝食を食べない学生が多い。アルバイト先の賄いだけしか食べずに体調を崩した学生がいたり、臨地実習中に低血糖を起こす学生や、痩せていく学生がいたりして気になっている。

➡新型コロナウイルス感染症の影響によって５日間連続で臨地実習に行くということがなかったので、長期間の実習に耐えられなくなっている。

〇地域包括ケアシステムの推進が進み、在宅療養に向けての動きがあるなか、地域でどういう生活が営まれているのかを知らない学生が多い。ICTやバーチャルによって生の生活感が得られない状況があり、地域の方との関わりを増やしてほしい。 ・・・・・・・・・・・・（澤田委員）

➡施設の入所者としか接する機会がなく、生活者に対するイメージが弱い。地域のイベントへの参加などフィールドワークを取り入れており、健康な住民と接する機会を増やしていきたい。

---

（6）学校関係者評価結果の確認

報告した評価結果で問題ないことを確認し、承認を得た。

---

（7）閉会あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（石束顧問）

〇学科による指導の差については、自立を重んじてどこまで待つかというところと、最低限ここまではできるようになって欲しいと思うあまり手取り足取り教えてしまうというところの違いではないかと考えている。

〇自分が担当する授業についてはその都度振り返り、修正しながら進めているが、協同学習という方法を使ってみたところ学生からの反応が良かった。授業の工夫が手ごたえとして返って来たときに喜びがあり、モチベーションが上がる。そういった部分を教員間で共有しながら教育に楽しみを持てるようにしていきたい。

〇大学との競合について真剣に考える必要がある。令和４年度学生入学試験は本当に応募者が少なかった。令和５年度学生入学試験では少しは盛り返すことができたが、今後ますます厳しくなる。本校の特徴を活かし、学校運営・学生募集に努めたい。

〇本日はたくさんの意見をいただき、お礼を申し上げる。今日の活発な意見交換を参考にして、改善するべきところを改善していきたい。

## ５ 令和６年度の開催日について

令和６年６月19日（水） 午前10時に開催予定とすることが確認された。